

科目名	化学Ⅱ	英語科目名	Chemistry Ⅱ
開講年度・学期	平成 25 年度・後期	対象学科・専攻・学年	物質工学科 1 年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	2 単位	単位種類	履修単位
担当教員	森下 佳代子	居室（もしくは所属）	電物棟3階(一般科)
電話	0285-20-2181	E-mail	morisita@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)	JABEE 基準要件
物質のしくみ、物質にかかわる現象を理解し、より深い化学的考察力を養う。	①, ③-A		
実験・演習を通じて、より深い化学的考察力を養う。	②		
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
試験の成績をベースに課題、小テスト結果等を加味して評価する。			
評価方法			
全 4 回の定期試験の平均点で評価する。			
授業内容			
<p>第 1 回 第Ⅲ章 第 1 節 ①元素の分類と性質</p> <p>第 2 回 第Ⅲ章 第 1 節 ②水素・酸素とその化合物、③希ガス</p> <p>第 3 回 第Ⅲ章 第 1 節 ④ハロゲンとその化合物</p> <p>第 4 回 第Ⅲ章 第 1 節 ⑤硫黄とその化合物</p> <p>第 5 回 第Ⅲ章 第 1 節 ⑥窒素・リンとその化合物</p> <p>第 6 回 第Ⅲ章 第 1 節 ⑦炭素・ケイ素とその化合物</p> <p>第 7 回 総合演習①</p> <p>第 8 回 【前期中間テスト】</p> <p>第 9 回 第Ⅲ章 第 2 節 ①アルカリ金属とその化合物</p> <p>第 10 回 第Ⅲ章 第 2 節 ② 2 族元素とその化合物</p> <p>第 11 回 第Ⅲ章 第 2 節 ③亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物 (その 1)</p> <p>第 12 回 第Ⅲ章 第 2 節 ③亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物 (その 2)</p> <p>第 13 回 第Ⅱ章 第 3 節 ①酸化と還元</p> <p>第 14 回 第Ⅱ章 第 3 節 ②電池、③電気分解</p> <p>第 15 回 総合演習②</p> <p>【前期定期試験】</p> <p>第 16 回 第Ⅲ章 第 3 節 ①遷移元素とその化合物 <銅></p> <p>第 17 回 第Ⅲ章 第 3 節 ①遷移元素とその化合物 <銀></p> <p>第 18 回 第Ⅲ章 第 3 節 ①遷移元素とその化合物 <鉄></p> <p>第 19 回 第Ⅲ章 第 3 節 ①遷移元素とその化合物 <クロム・マンガン></p> <p>第 20 回 第Ⅲ章 第 3 節 ②金属イオンの定性分析 (その 1)</p> <p>第 21 回 第Ⅲ章 第 3 節 ②金属イオンの定性分析 (その 2)</p> <p>第 22 回 総合演習③</p> <p>第 23 回 【後期中間テスト】</p> <p>第 24 回 第Ⅳ章 第 1 節 ①特徴と分類</p> <p>第 25 回 第Ⅳ章 第 1 節 ②化学式の決定</p> <p>第 26 回 第Ⅳ章 第 2 節 ①アルカンとシクロアルカン</p> <p>第 27 回 第Ⅳ章 第 2 節 ②アルケンとアルキン</p> <p>第 28 回 第Ⅳ章 第 3 節 ①アルコールとエーテル</p> <p>第 29 回 第Ⅳ章 第 3 節 ②アルデヒドとケトン</p> <p>第 30 回 総合演習④</p> <p>【学年末定期試験】</p>			
キーワード	論理的理解		
教科書	高等学校 改訂 化学 I (第一学習社)		
参考書	セミナー化学 I (第一学習社)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
次年度以降の関連科目	化学 I		
連絡事項			
1. 授業方法は講義を中心とし、時々課題を課す他、小テストを行う。授業の進捗を見ながら実験を行う。			
2. 原則として、定期試験未受験者は再試験を認めないものとする。			
シラバス作成年月日	平成 24 年 3 月 24 日		